

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
(Tel) 075-574-4118

京都橋女子大学図書館 田北十生気付
(Fax) 075-574-4124

第 2 1 回 大 図 研 京 都 支 部 総 会 に 積 極 的 参 加 を お 願 い し ま す !

日 時 7 月 1 7 日 (金) 午 後 6 時 3 0 分 ~ 8 時
会 場 京 大 会 館

* 準備の関係で出欠については7月7日までに最寄りの支部委員、
または、下記大館事務局長までお願いします。

大館和郎 (おおだて・かずお) 京都学園大学 図書館

TEL 0771-29-2292 FAX 0771-29-2299

E-mail odate@kyotogakuen-u.ac.jp

「ゆりかもめ」動き出す!

参加者も26名に増加!

参加申し込みは、下記のホームページから

<http://kuee2.kuee.kyoto-u.ac.jp/library/yurikams.html>



「ゆりかもめ」は4月開設以来ちょっと中だるみしていましたが、やっと本格的に活動を始めました。メーリングリスト参加会員も増加しています。

条件をお持ちでまだ、参加されていない大図研京都支部のみなさんの積極的な参加を期待しています。この「ゆりかもめ」を通じて、会員相互の交流の輪を大きく広げましょう。

目次	支部総会のお知らせ.....	1 頁
	「ゆりかもめ」動き出す!.....	1 頁
	第 21 回支部総会議案書.....	2 頁
	大図研京都支部研究集会の日程.....	4 頁
次	第 9 回支部委員会の報告	4 頁
	連載小説 (8) リュウ.....	5 頁
	数珠つなぎ (28)	6 頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又は FAX で
編集気付 (kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

大学図書館問題研究会 第21回京都支部総会議案書

【第1号議案】

1997年度活動総括 及び 1998年度活動方針



はじめに

急激な情報環境の変化によって、大学図書館においてもネットワーク化、デジタル化という流れの中で、業務全般に大きな変化が生じています。図書館の取り扱う資料も従来の紙媒体資料に加えて、各種視聴覚資料、デジタル情報など範囲が広がり、そのことに対応して業務拡大、サービス拡大が求められています。そのうえに図書館の現場では人員削減などによる労働条件の悪化が進行していることを深く受けとめなければいけません。こうした状況のもとでは、利用者サービスを一層促進するためにも、自分たちの労働条件改善をすすめる上でも、図書館員としての専門的力を向上させ、PRにつとめ、利用者や教職員・学生の信頼を勝ち取ることがいつにもまして切実な課題となってきています。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来ました。

1. 1997年度活動総括

(1) 会員間のコミュニケーションと研究活動の重視

1997年度においては、研究活動の発展と研究会の組織化を含めた会員間のコミュニケーションの場の提供を課題としてきました。

研究活動については、6月に研究集会を開催する準備を進めています。また今年の4月より京都支部メーリングリスト「ゆりかもめ」を開設しました。

東京支部がメーリングリストを開始したことに学び、京都でも実施して会員相互の親睦・連絡交流を深めることができるという思いで設置することにしました。

(2) 第6回大学図書館員京都研究集会

今年度は、6月20日(土)に芝蘭^{しらん}会館において、研究集会「京大図書館新システムの取り組みについて」の開催の準備を進めています。このテーマに決まるまで、支部委員会で何回も討議を重ねました。大学図書館をめぐる状況を考えた場合、一番開

心をもってもらえるテーマではないかとの意見のもとに決定しました。討議の進行をスムーズにし、議論を深めたものにするため、何回も打ち合わせを重ねました。

(3) 支部報

支部報は、会員のコミュニケーションの場、会員の発表の場の提供、支部活動の報告など極めて重要な役割を担っています。

「大図研京都数珠つなぎ」は159号で27回を重ね、多くの人に執筆の機会を提供するとともに、会員間のコミュニケーション促進に一定の役割をはたしています。

支部総会や研究集会、5支部新春合同例会、全国大会、その他の集会の報告・感想記事、「学術司書制度試案」、支部委員会報告などを掲載しました。

また、小説など誌面内容をバラエティに富んだものにするように努めました。

(4) 財政活動

支部活動の根幹をなす財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行いました。又長期会費未納会員を一掃することに努めました。

昨年総会で特別事業基金についてなぜ必要なのか説明不足であり、具体的な目標が必要であるとの指摘を受けましたが、この基金を何に使うかはまだ検討中です。

2. 1998年度活動方針

(1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視

今年度も研究活動の充実をはかるとともに、会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行およびメーリングリストの活用など一層の努力をします。

(2) 研究集会について

今年度も会員のニーズに応えるような研究集会をを実施する予定です。

(3) 支部報について

今年度も毎月の発行をめざします。内容については、会員の多様なニーズに応えるよう努力します。読みやすい紙面づくりを心がけます。できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

(4) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。特に若手の会員を増やし組織の若返りをはかることを重視します。

(5) 全会員の会費前納をめざします

会員としての義務である会費納入を全員が確実に行いましょう。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会においても原則として毎回担当者から報告と提案を受け、会費前納を促進するため全員で討議するなど集团的取り組みを強めます。

(以下の議案は当日配布)

【第2号議案】 1997年度決算報告

1998年度予算及び会計監査報告

【第3号議案】 1998年度支部役員選挙



大図研京都支部 研究集会の日程

日時 6月20日(土) 12:30~17:00

会場 芝蘭会館(東大路通りバス停「京大正門前」下車すぐ)

内容 京大図書館新システムの取り組みについて

第9回支部委員会の報告

日時 1998年6月4日(木) 午後7時~ 澤居氏の参加を得て

会場 同志社大学クローバーハウス1F読書室

【報告事項】

1. 会員情報
2. 財政情報
3. 「ゆりかもめ」運用状況

【審議事項】

1. 支部報について 7, 8月号は、合併号とします。
2. 支部総会(7月17日 京大会館)について
 - 1) 議案書
3. 第6回大学図書館員京都研究集会(6月20日)について
 - 1) 案内用ビラの発行、参加費 一人 500円
 - 2) 当日の役割分担
 - 3) 懇親会 18時~ 場所 未定(候補は「楽」)
4. 次回支部委員会 7月7日(火)



リ ュ ウ

作 西田 治

美穂の無邪気な戸惑う姿に、僕は怒鳴ってしまった自分を恥じた。僕は美穂の手を取り、おもちゃ箱の横に一緒に座った。

「どうして洋子はこんなことになったの？」と僕は穏やかな調子で聞いた。美穂のいうのには、洋子が可愛いので抱きしめたら、逃げようとしたので逃げないようにして抱いていたら動かなくなった、というのである。要するに美穂は、洋子を絞殺したのだ。僕は、生き物とおもちゃの区別の付かない美穂の感覚に身の毛のよだつようなショックを受けた。美穂におもちゃと生き物との違いを丁寧に説明した。美穂は、真剣な顔で聞いている。しかし、命の大切さを説明するのに、明確に美穂にわかって貰うのはどうしたらいいのか、戸惑いながらの説明であった。

「お父さんの言ってることわかるか？」

美穂は「うん」といって頷いた。本当にわかってもらえたのかという一抹の不安があった。それで、僕は洋子のお墓を美穂と一緒に庭に作ろうと考えた。美穂も快く同意した。

この世に生を受けてわずか4ヶ月足らずの洋子の遺体をティッシュペーパーでくるんだ。棺は、食器が入っていた紫色の頑丈で上品な紙箱にした。玄関先の小さな庭は、3分の2がガレージと通路で占め、2坪ほどの土地に楓、ドウダンツツジ、日向水木、雪柳、小手鞠、金糸梅等が植えてある。僕等はその木の下に穴を掘り、洋子の棺を埋めた。河原から拾ってきて、並べてあった丸い石を墓標にした。

美穂は一言も口を利かず、僕の言うことを素直にした。ジュースの空き瓶に花を生け、ろうそくを立てた。線香がなかったので、蚊取り線香を使った。出来上がると僕等は両手を合わせて墓標に頭を下げた。

「これで洋子も安らかに眠れるだろう！」

「・・・・・・・・」

僕は立ち上がった。しかし、美穂はうずくまったまま、墓標を眺めていた。僕は、美穂の後ろ姿をしばらく眺めていた。美穂が可愛そうな気がしてきた。僕は、うずくまったままの美穂を抱き上げた。美穂は、顔を伏せたままだった。のぞき込むと美穂の目に涙が光っていた。僕は何も言わずに、美穂を抱きしめ、頭をなでた。美穂は、僕の肩に顔を埋めると、体を震わせて泣いた。僕までが目頭が熱くなった。僕は美穂を抱いたまま、家に入った。

居間では淳一が起きてきて、食事をしていた。向かい合わせに圭子が座って新聞を眺めていた。僕は美穂をテレビの前に降ろした。美穂はしばらくテレビの画面を黙ってみているが、やがて自分でチャンネルを変えた。

「ちょっと！これ見てよ」と圭子が僕の方に顔も向けずに行った。

(次号に続く)

